

◇社団法人奥出雲町農業公社

売上高	5,046万7千円	前年比	-4.7%	-247万4千円
純利益	-1,911万7千円	前年比	19.0%赤字増	-305万5千円
繰越損益	-7,239万9千円	前年比	35.8%悪化	-1,911万7千円

○価格推移

導入価格	450,158円	前年比	-31,897円
販売価格	438,550円	前年比	+18,538円
差額	-11,608円	前年比	+50,435円

繁殖育成事業状況

- 子牛販売頭数 71頭 販売額 27,241,200円
1頭価格 383,378円 (前年比+7,765円)
- 成牛販売頭数 10頭 販売額8,281,350円
1頭価格 828,135円 (前年比+68,565円)
- 育成コスト 20,613円/月/頭
(前年比+691円/月/頭)

◇奥出雲町土地開発公社

当期利益は494万4千円。旧横田開発公社未処分土地の債務負担行為額今年度残高は前年度比3,000万円減の4億5124万3千円。新たな債務負担行為として2,100万円分(三沢グループホーム用地)が追加された。

福祉厚生常任委員会視察報告

島根原子力発電所について

昨年発生した東日本大震災の教訓を受け、次のような対策を講じていました。

- ・電源を確保する対策として、建物浸水防止対策、高圧発電機車等の配備など。
- ・原子炉・使用済燃料プールを冷やす対策として、消防ポンプ車の追加配備、使用済み燃料プールの冷却機能強化など。
- ・敷地内への浸水を防ぐ対策は防波壁の強化、海拔15mに嵩上げH25年度完成予定
- ・シビアアクシデント、その他
中央制御室の作業環境確保、緊急時における発電所構内通信手段の確保、免震重要棟(仮称)の設置(H26年度内運用開始予定)
以上福島原子力発電所事故を教訓に対策工事等が進められていました。

隠岐の島町国民健康保険事業について

- ・隠岐の島町の概要
人口15,679人、世帯数7,269世帯、高齢化率33.31%。
国保被保険者数4,454人(人口の約29%)後期高齢者医療被保険者数3,194人(人口の約21%)
平成23年度会計決算は歳入総額18億5,400万円。
歳出総額18億4,600万円で、1人当りの医療費は315,626円で県内最低となっていますが、医療給付費の推移をみると前年度より1.99%上昇している。その原因は入院費の上昇。
- ・後期高齢者支援金も前年度より5.2%上昇、平成24年度は13.62%の上昇予想とされている。
- ・また介護納付金は前年度より10.77%、平成24年度は8.04%上昇予想されています。
- ・こうした状況を踏まえ平成25年度から国保税の税率を11%値上げせざるを得ない状況で現在、住民説明会を行なっている。

隠岐広域連合立隠岐病院について

・病院の概要

施設は鉄筋コンクリート5階建。診療科は内科、外科をはじめ14科。病床数、一般91床、精神22床、感染症2床計115床、職員数 医師16名他計218名(臨時職員69名)含む。
看護基準 一般10対1 精神13対1

平成23年度の経営状況

患者数入院35千人、外来104千人
診療収益 入院収益10億8,400万円、外来収益8億2,100万円、県町負担金13億5,000万円、事業収益24億9,700万円、事業費用25億1,100万円、純損益△1,300万円。

医療連携について

県立中央病院と逐次画像を伝送して専門医の所見によりの確で安心のもてる医療の提供を行なっている。

離島救急患者緊急輸送

平成23年度隠岐病院から本土医療機関への救急搬送状況は、41件、片道30分で、出雲、松江圏内に輸送できる。

医療従事者確保の取り組み

常勤医師は16名、医師不足が深刻化している。看護師、薬剤師、臨床工学技士の応募がない状況。医師の給与の改善、医療事務作業補助者の採用、院内医師連携によるチーム医療に取り組み、医師の負担軽減に努力されていました。研修や実習を受け入れて、地域での医療活動に従事する意識を図っている。

今後の課題

看護師確保のため院内保育所の検討をして見たいとのことでした。